

## 事業評価において特に優れた事業と認められた事業一覧

	長寿	高齢・障害	子育て	障スポ	計
一般分	1	4	4	1	10
特別分	4	2	5	0	11
地方分	—	5	7	2	14
合計	5	11	16	3	35

- |   |
|---|
| <p>手法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大会等の実施</li> <li>2. 大会への参加</li> <li>3. 研修会等を開催</li> <li>4. マニュアル作成</li> <li>5. 情報提供</li> <li>6. 調査研究</li> <li>7. 福祉サービスを提供</li> <li>8. 設備・備品の整備</li> </ol> |
|---|

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額 (千円)	手法	評価できる点
一般分	長寿	1	財団法人 日本障害者リハビリテーション協会	障害者地域生活支援技術研修事業	<p>支援費制度においてサービス提供事業者の質の向上を図るため、身体障害者及び知的障害者生活支援事業に従事する相談員、ピアカウンセラー、管理者、コーディネーター等を対象に個別支援計画作成等に関する研修を実施する。</p> <p>また、過去2年の事業参加者に、その後の実践状況を調査し、報告書にまとめる。</p>	3,830	3	<p>過去の研修受講者へのアンケート調査のコメントから問題点の抽出を行い改善まで結び付けているなど継続事業が上手く生かされた例であり、障害者地域生活支援に関する実践的研修のモデルとなるものである。</p> <p>協会の研修技術力、担当者の力量も確実に向上しており、助成が団体にも、団体がおこなうサービス先にも良い効果をもたらした典型的な例である。</p>

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
一般分	高齢・障害	1	シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会	福祉系NPOの募金に係る信頼性促進事業	福祉系NPOが寄付者や会員からの信頼性を確保する手段を確立し、寄付を集めるネットワークの構築と募金活動の活発な展開を推進するため、国内外の募金手法の調査研究を行い、成果をシンポジウムとマニュアル、HPで発表する。	9,221	4・5	NPO団体において安定的な事業運営を行うためには財源確保が必要不可欠であり、団体の実施する寄付文化の醸成に取り組む活動として「寄付者のニーズを把握した寄付募集」、「寄付者志向のNPO」等の発想は注目に値し評価できる。 また、「データから見るNPOの信頼性確保のための10のチェックポイント」の作成、「エイムクラブ」を通じた寄付金の増加等、短期間において多くの成果が認められる。この事業の成果は、今後大いに議論を重ねた上、全国的に波及すべき価値を有すると考える。
			<a href="http://www.npweb.jp/">http://www.npweb.jp/</a>	代表者名 代表 武者小路 公秀	住所 〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-7 OSビル2階	電話 03-5227-2008	成果物 小冊子「Aim club (エイムクラブ)」 マニュアル「データから見るNPOの信頼性確保のための10のチェックポイント」 報告書「NPOの信頼性を確保し寄付を集めるには何が必要か」	
一般分	高齢・障害	2	財団法人 ぼけ予防協会	高齢者における歯の欠損・歯周病と認知症に関する調査事業	歯の損失や歯周病が認知症のリスクになる可能性を解明するため、歯の欠損を放置している人、または重度の歯周病に罹患している人に特化して脳MRI検査を継続的に実施し、口腔内の状況と脳の機能の関連性を調査する。	9,055	6	従来、口腔ケアは歯科の分野では非常に遅れていた感がある。そういう中であって、歯の欠損、歯周病と脳との関係に着目した点は高く評価できる。また、一般的に様々なデータに基づくアカデミックな報告書となっており、口腔ケアは介護予防の新予防給付でも口腔機能向上としてその3本柱の1つになっており、時宜を得たものといえる。特に、脳血管障害性認知症と歯、口腔ケアとの因果関係が少しでもはっきりすれば今後に資するものと思われる。 また、歯科と医科の協力、整合性及び県立病院のスタッフが全面的に協力した(栄養士も参加したという)点は連携という観点からはこれを評価したい。
			<a href="http://www.mainichi.co.jp/bokeyobou/">http://www.mainichi.co.jp/bokeyobou/</a>	代表者名 理事長 北村 正任	住所 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1(毎日新聞社内)	電話 03-3216-4409	成果物 報告書「高齢者における歯の欠損・歯周病と認知症に関する調査報告書」	

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
一般分	高齢・障害	3	社団法人 日本てんかん協会	てんかんのある障害者の生活支援体制を構築するための事業	てんかんのある障害者の自立生活支援体制を構築・強化するため、てんかんのある障害者がもつ生活支援に関する課題について検討し、ガイドラインとなる生活支援マニュアルを作成する。	8,198	4	てんかんを医学的な発作だけでなく、社会的な面からの「生活」という視点や、知的障害や身体障害の重複を含めての視点も評価に値する。更に、「発達障害者や中途障害者の生活支援につながる」との考え方には共鳴出来るなど、全体的にその発想は評価できる。 アンケート調査(回答率61.1%)だけでなく、グループホームの利用実態調査も実施するなど全国18ヶ所の施設への訪問・実地調査を行っている。また、マニュアルを刊行し、今後の活動と次年度事業につなげる姿勢が伺える。特に、「マニュアル」発作があっても「地域で自立したい！」は良く作られており、その発想も良く、障害者自立支援法、介護保険の自立にも通じるものがある。
一般分	高齢・障害	3	特定非営利活動法人 日本せきずい基金	脊髄損傷者の自己管理マニュアル刊行事業	脊髄損傷者の二次障害を予防し、社会参加を促進するため、当事者の基本テキストとなる「脊髄損傷者の自己管理マニュアル」を作成・配布する。16年度に基礎編、17年度にQ&A編を作成・配布する。	4,754	4	組織のもつ専門家ネットワークを良く活用して充実した内容に近づいている。成果物については、当事者、家族、諸団体から高い評価があり増刷を予定している。今後、1年目の基礎編及び2年目のQ&A編を再編集して商業出版し、適宜改訂版を発行することにより、組織の自立にも繋がるものと期待できる。 団体のHPにおいては、成果物をPDFで掲載し、ダウンロードも可能となっている。また、今年度においては、更にキーワード検索等可能となるよう工夫する姿勢が見られる。

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額 (千円)	手法	評価できる点
一般分	子育て	1	財団法人 家庭保健生活指導センター	不妊に対する理解と支援のための普及事業	不妊に悩む人々への長期的な支援を確立するため、母子保健関係者を対象に、不妊に悩む人々への理解と情報の普及、資質向上のためのセミナーを開催する。また、不妊相談のための知識とスキルの習得のためのマニュアルを作成する。参加者へアンケートを行い、事業効果を調査し、これらを報告書にまとめる。	9,505	3	不妊に悩む人々が増加しているにも関わらず、その実態及び支援の在り方に対する理解が一般的に不十分であるだけでなく、医療や保健等の関連領域で仕事に従事する専門職においても同様である。本事業の企画は、まさに時宜を得たものであり、関連領域の識者の協力のもとに得られた成果は大変優れている。今後は成果をさらに普及させていくために、出版物の記載方法等にさらに工夫がなされることを期待したい。
一般分	子育て	1	財団法人 児童健全育成推進財団	多様化する児童館活動に関する調査研究事業	児童館が現代のニーズに即した地域の児童健全育成の拠点としてより一層の高いサービスを提供し、児童健全育成及び次世代育成支援対策に資するため、児童館及び委託地方自治体を対象に、指定管理者制度導入に関する実態調査を実施し(アンケート調査・ヒアリング調査)、分析・検討を加え、これらを報告書にまとめる。	8,764	6	児童館運営に大きな影響を及ぼす指定管理者制度に対する対応の実態について自治体、児童館長に調査をして、その結果を分析・考察しつつ今後の対応について提言を行う本事業は非常に時宜にかなったものであり、貴重な調査研究であると言える。実施者適性も高く、手法も妥当である。 また、内容についても、調査結果のみに捉われず、指定管理者制度にどのように対応すべきかを解説するマニュアル書としての位置づけともなっている点やダイジェスト版を作成している点も大きく評価できる。
			<a href="http://www.jidoukan.or.jp/">http://www.jidoukan.or.jp/</a>					

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
一般分	子育て	1	社団法人 日本女医会	働く女性のための育児環境整備支援事業	子どもの心身の健全な育成及び働く女性の育児支援を目標に、病児及び病後児保育の現状を詳細に把握するため、16年度に実施したアンケート調査回答施設を対象にヒアリング調査を行う。また、ホームページで広く病児保育に関するアンケート調査を行う。さらに、病児保育関係者及び一般を対象としたワークショップ、公開講座を開催する。これまでの事業のまとめとなる報告書を作成し、提言する。	8,804	3・6	調査研究の成果に基づき、この団体の実力および信頼度に見合ったワークショップおよび公開シンポジウムが行われ、一定の社会的影響をもたらしており、事業遂行に成功している。自己評価は控えめであるが、内容的には充実しており、十分なものであった。 この団体では、多忙な女性医師たちが自ら精力的かつ誠実に事業に関わっていることに敬服する。今年度は、昨年度の事業成果および指摘を適切に踏まえ、さらなる展開を図り、優れた調査研究結果をまとめている。必ずしも十分に明らかにされてこなかった病児保育の実態が明らかになったばかりでなく、医師の団体と保育園・病児保育施設・看護職・保護者たちとの連携を図りながらこのような調査研究が進められたことに、大きな意味があると言えよう。今後の更なる活動が期待できる。
			<a href="http://www.imwa.or.jp/">http://www.imwa.or.jp/</a>	代表者名 会長 小田 泰子	住所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル3階 電話 03-3498-0571	成果物 報告書「働く女性のための育児環境整備支援事業 最終報告書」		
一般分	子育て	1	特定非営利活動法人ファミリーハウス	患者家族滞在施設の推進モデル事業	近年存在意義が高まってきている地方における患者家族滞在施設を活性化し、さらに推進するため、滞在施設に最低限必要な共通の機能及び条件を検討し、研修会を開催し推進モデルの普及を図る。研修会参加者にアンケート調査を行い、事業効果を調査し、報告書にまとめる。	2,646	3	社会的必要性は高いが、制度のすき間にあり、ボランティアに行なわれている事業である。そのため多様性があり、今後の発展のためには事業の共通的な目標の設定が課題になっていたが、この助成によって、全国の関係者の意見を集約し、それが作成された。これにより、この分野での活動の発展のための道標を据えることができたという点で高く評価される。 また、取り組みも極めて地に足が着いたもので、組織の現状を踏まえたものである。全国的ネットワークは組織としての確立は将来の課題であるが、ゆるやかな連携がつけられつつある。利用者、関係者が容易にアクセスできるようなインターネットによる情報の仕組みの充実を期待したい。
			<a href="http://www.familyhouse.or.jp/">http://www.familyhouse.or.jp/</a>	代表者名 理事長 長坂 寿久	住所 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-19 電話 03-5825-2931	成果物 報告書「患者家族滞在施設の推進モデル事業報告書」		

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
一般分	障スポ	1	日本ゴールボール協会	2005日本ゴールボール選手権大会事業	視覚障害者にスポーツを通じた社会参加の機会を与えるとともに、ゴールボールの国内における普及・発展を図るため、全国規模のゴールボール選手権大会を開催する。	969	1	パラリンピックで実施されている視覚障害者の団体競技は、男子のサッカーとゴールボールだけである。ゴールボールは、少しずつ普及してきた競技で、一昨年のアテネパラリンピックに女子が出場でき、銅メダルを獲得するという好成績を上げ、国民に視覚障害者のスポーツへの理解を高めるうえから大きな成果を挙げた。 しかしながら、視覚障害者は減少しており、中でもスポーツに親しむ若い年齢の者は特に少ないうえに、取り組みやすい個人競技に流れ、ゴールボールの競技人口の確保に苦勞していることは十分理解できる。さらに、原型のスポーツが無く特別な競技として発展して来たため支援を求める既存の競技団体が無いことから、協会における競技運営の大変な苦勞が伺える。
			<a href="http://www5f.biglobe.ne.jp/%7EJGBA/">http://www5f.biglobe.ne.jp/%7EJGBA/</a>	代表者名 会長 京近 高典	住所 〒114-0033 東京都北区十条台1-2-2 東京都障害者総合スポーツセンター内 連絡先 E-Mail:jgba_1994@hotmail.com			成果物 報告書「2005 日本ゴールボール選手権大会 大会報告書」
特別分	長寿	1	東海ターミナルケア研究会	がん患者の退院後支援事業	がん患者が退院後、地域の医療・介護サービスを活用しながら安心して在宅ケアを続けられるようにコーディネートできる人材の養成を行う。	5,000	3	医療施設の看護職を中心に対象とした講座の参加者は、受講者の関心が深かったテーマであったことから、大変盛況であり、満足度の高いものであったと窺える。また、これを機に会員数も増え、組織の拡大につながっており、大きな成果と言える。 成果物の講座で使用したテキスト、受講後の学習書としてのマニュアル(講義録)は、従来活動で蓄積されたノウハウを取り入れ、良くまとめられた内容となっている。 また、がん患者とその家族を支援する終末期医療を充実させることは重要なことであることから、今後もこれらのニーズに応えるべく活動願うとともに、行政や関係団体との連携体制づくりに貢献されるよう期待したい。
			<a href="http://www.tokai-medi.co.jp/tamiken/index.html">http://www.tokai-medi.co.jp/tamiken/index.html</a>	代表者名 代表 大野 竜三	住所 〒466-0027 愛知県名古屋市中昭和区阿由知通4-7 電話 052-851-7113			成果物 講習会テキスト「がん患者の退院支援講座 資料集(前期、後期)」、講義録「がん患者の退院支援講座講義録」

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
特別分	長寿	2	特定非営利活動法人 コーチズ	高齢者健康踊り「座ソーラン」 普及事業	より多くの高齢者の方たちに新しいコミュニティと自己実現の場を提供するため、座ソーラン教室の開催とインストラクターミーティングを実施する。	3,400	7	高齢者の健康踊りとして椅子に座ったままソーラン節を踊るという「座ソーラン」を開発し、111回の教室を積極的に開催し延べ3000名もの参加者があった。 また、今回の事業は、普及のため踊り方のマニュアルを作成したことにより、広島から始めた運動が鹿児島・佐賀・大阪へと広がりを見せている点も高く評価したい。
特別分	長寿	4	口腔介護とケアマネジメント研究会	閉じこもり高齢者へのチームアプローチ推進事業	都市型のライフスタイルをもつ高齢者の閉じこもりの要因を調査・研究し、自立支援につながる援助方法(チームアプローチ)に反映させ、これらを報告書にまとめる。	3,875	3	都市型生活を送る高齢者が引きこもり(閉じこもり)勝ちとなる。この人々が”トータルで元気になる”よう支援するために関係者がチームで支援する意味を強調し、この具体的方策を関係者が自覚し、確信をもつための事業であることは素晴らしいことである。 団体の代表の情熱と行動力がこの事業を動かしており、代表による全国レベルの研究会での発表などにより、理解は次第に広がりを見せている。

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
特別分	長寿	4	特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎	地域介護の拠点「かあさんの家」事業	介護・医療制度の枠から外れ、困難を抱えながら療養している方々の受け皿を作り、ケアサロンの運営や家族支援の学習会、遺族の悲嘆ケアを実施する。	4,000	7	誰でもが住みよい街づくりをめざして発足したが、その最初にとりあげた事業が”ホームホスピス”であり、”病院ボランティア”その他多くの関連事業を着実に進めており、市民の手による市民社会づくりであろう。また、医師会、看護協会などの積極的な支援を受けている。 現行の医療、福祉システムの狭間にいる高齢者、難病の方々にとって最後で、しかし最善のホームホスピスの実現に目を見張る思いである。団体の理事10名中、医師2人、看護師2人、弁護士1人、一般市民5人という構成とNPO法人の発足の目的がこの事業を成功させたのであろう。
			<a href="http://www.npo-hhm.jp/">http://www.npo-hhm.jp/</a>	代表者名 理事長 市原 美穂	住所 〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざきNPOハウス202	電話 0985-61-3201	成果物 事業報告書、チラシ、パンフレット、リーフレット	
特別分	高齢・障害	1	障害のある子どもの放課後保障全国連絡会	調査・研究プロジェクト事業	小1から高3の学齢期の障害児を対象にして取組む団体及びその団体に対する自治体の制度・補助制度等に関し、県・政令市等へのアンケート調査を行う。また、アンケートを基に訪問先20箇所をピックアップして調査し、その結果を冊子にまとめ、報告会で発表する。	1,900	6	障害のある子どもを対象にした放課後クラブの状況を全国的に調査したものは、今まで実施されておらず、初めてまとめた意義は大きい。さらに、まとめた成果を発表会の形で行うことも、単に「作成して終わり」ではなく成果を還元していると言える。 また、今後は放課後クラブの職員の質の向上のために研修会の実施を検討するなど、今回の事業から出た課題を、新たな事業に生かそうとしている姿勢が伺える。
			<a href="http://www.geocities.jp/houkagoren/">http://www.geocities.jp/houkagoren/</a>	代表者名 会長 永野 幸雄	住所 〒187-0032 東京都小平市小川町1-983 ゆうやけ子どもクラブ内	電話 042-344-2448	成果物 報告書「放課後活動団体調査報告」「障害児の放課後実践とネットワーク」「全国放課後連 調査・研究プロジェクト事業」	

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
特別分	高齢・障害	3	社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団	障害者アートディレクター公募 展事業	専門的な視点から応募のあった企画案とアートディレクターの選定を行い、障害者作品の「アウトサイダーアート」として展覧会を開催する。	5,000	1	組織としてのバックアップもよく、特別分に相応しい企画で、事業内容の水準も高い。これまでの実績を良く生かした先駆的な事業と言える。 組織の今後の発展にとっても効果的で、期待したい。団体として、自己評価も自信に満ちており、この種の波及効果は時間がかかる点もよく理解している。
			<a href="http://www.hukusi-shiga.net/iigvoudan/index.html">http://www.hukusi-shiga.net/iigvoudan/index.html</a>	代表者名 理事長 山田 和久	住所 〒520-0044 滋賀県大津市京町四丁目3-28	電話 077-522-3933	成果物 展覧会チラシ、パンフレット	
特別分	子育て	1	思春期青年期心理サポートセンター (ほのぼのすぺーす)	不登校・引きこもり青年およびその家族への包括的支援事業	サポートスタッフを引きこもり・不登校児の家庭に直接派遣して解決に向けた具体的支援を行うため、サポートスタッフ派遣・家族支援プログラム・公開シンポジウムを実施し、リーフレットを作成する。	3,531	1・3 5・7	各分野で働いている臨床心理士が、仕事を通じて強く持っていた問題意識、すなわち義務教育後の引きこもり青年のサポートに取り組む必要性を、自らがグループをつくり専門性や、専門機関、大学との関係を生かし取り組み、引きこもり青年とその家族への対応の新しいモデルを作り出しつつある点は高く評価したい。 専門スタッフと大学生らのサポートスタッフにより、対象者の家庭に直接訪問支援を行ったり、学校の相談室等に訪問しメンタルフレンド的関わりや学習支援を行っている。さらに、グループミーティングや体験プログラムを行ない、対象者が外の世界に踏み出すきっかけづくりや家族への個別相談、親の会、メンタルヘルス講習会等を行ない保護者支援を行っている。 市民や関係機関、団体を対象とした公開講座、公開事業報告を行ない本事業への理解者を増やしネットワークを広げている。会のメンバーの持つ専門的ノウハウと仕事を通してのネットワークが注ぎ込まれ、代表が勤務する医院の協力で空室を事務所や相談室等に活用できた点もはじめてから事業展開を可能にしている。
			代表者名 代表 与那城 郁子	住所 〒903-0117 沖縄県中頭郡西原町翁長393番地	電話 080-3121-5289	成果物 リーフレット、利用者の声、チラシ		

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
特別分	子育て	1	特定非営利活動法人 新座子育てネットワーク	子育てネットワークのプログラム 開発と実践事業	「父親への子育て支援」と「特別な支援を必要とする親の支援」の2つの課題に対応するため、父親プロジェクトの調査・カナダの親支援プログラム「ノーバディパーフェクト」・モデル事業を実施し、まとめとしてマニュアル作成とシンポジウムを行う。	4,400	4	父親の育児参加の必要性が指摘されて久しい。しかしながら、日本社会にはそのノウハウが十分でないこともあって、現実にはどのように父親の育児参加を推進すべきか、暗中模索の状態が続いているのが実態である。そうした中、本事業はカナダをモデルとして、非常に意欲的、かつ周到な準備を経て、父親プロジェクトを推進しており、その成果はまとめられたマニュアルにも顕著に反映されている。本助成事業の目的を十二分に発揮した活動と言える。
特別分	子育て	1	特定非営利活動法人 いちかわ市民文化ネットワーク	「ハンディキャップド・ミュージカル」上演事業	障害者を真ん中に地域の子どもからお年寄りまでの三世代市民が集まり、若者を中心としたボランティアサポーターを支えて、ミュージカルの稽古・公演に取り組む。	4,996	1	代表者の専門的な資質の高さに負うところが多い事業であるが、こうした人材を地域の資源として大切にしながら、地域に個性的な活動が根づいていることは高く評価できる。また、事務局担当者もきちんとした仕事をしており、信頼感ももてる。 障害者と健常者の共生のあり方を探る新しいタイプの活動として、一地域を越えて全国に広く知られる価値のある活動と言える。

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
特別分	子育て	2	世田谷ソーシャルワークセンター	非行少年のためのドロップインセンター設立事業	地域の大人たちが非行の入り口に立つ少年や非行・犯罪少年の心を受け止めていくことによって非行を防止して社会の安全を図り、地域のコミュニティの再生をするため、非行少年のためのドロップインセンターを開設し、大人の勉強会・非行少年を持つ親の相談事業・進学・就職相談・ソーシャルワーカー養成・地域懇談会を実施する。	3,211	7	助成によってドロップインセンターという非行、犯罪を予防する、あるいは再犯を予防する新しい事業が生まれ実践され、助成終了後も古紙回収などのリサイクル事業を行ない、活動費を確保し継続されている。団体の代表者は、長い間あためていたこの事業を開始したのであり、助成が事業者の熱い思いと結びついて今までなかった貴重な事業を生み出したものであり、高く評価できる。プログラムは、いつでも来所して相談できる体制、10代の少年・中学生・働く青少年・暴走族各々を対象とし、定期的に行なわれている。こうした青少年が安心して出入りし、話ができるようになるための努力は相当なものであったと思える。この他、専門家ではない市民のソーシャルワーカーを養成する講座を開き、少年と社会の橋渡しができる人達を養成している。地域ネットワーク講義では地域で実際活動をしている人達が集まり、実践の中で考えた事を話し合い、学びあっている。活動を通じて進学したり、就職する少年も生まれている。助成が終了し自立の歩みを進めており今後期待したい。
			<a href="http://www.sswc.jp/">http://www.sswc.jp/</a>	代表者名 理事長 市川 行康	住所 〒157-0077 東京都世田谷区鎌田2-15-3 電話 03-3415-0469	成果物 報告書「ドロップインセンター設立事業年次報告書」		
特別分	子育て	4	特定非営利活動法人彩の子ネットワーク	私たちのための虐待予防マニュアル作成事業	子育ての当事者である母親達が自分達の問題を声にし、そこを出発点としてネットワーク化していく流れを起こしていくため、HPや虐待マニュアルを作成し、アンケート調査・セミナー・シンポジウム・赤ちゃんサロンを実施し、高校との保育ボランティア等に関する共同研究事業を行う。	5,000	4	編纂された虐待予防マニュアルは、子育て当事者である母親たちの実体験エピソードを基にその思いが詰まっており、自らの気づきを見出す内容となっているなど、質の高い成果物であると思われる。今後の活用の中でネットワークが広がるのが期待される。 また、HP上での子育てエピソードサイト開設、生き方アンケート調査、セミナー、シンポジウム、赤ちゃんサロン、高校との保育共同研究授業と多くの取組みが行なわれており、一定の成果は上げられているものと思われる。アンケート調査では、集計結果に基づいた各分析がなされており、大きな意義があったものとなっている。事業継続の意思は見られるので、今後の充実発展にも十分期待ができる。
			<a href="http://www.sainoko.net/">http://www.sainoko.net/</a>	代表者名 理事長 鈴木 玲子	住所 〒362-0014 埼玉県上尾市上尾村1156-3 電話 048-770-5272	成果物 マニュアル「母親発—私たちの虐待防止マニュアル心の声に出会うとき・・・ココがはじまり」、報告書「横並びアクションリサーチ みんなで子育て～虐待防止ネットワークづくり 生き方実感アンケート調査結果報告書」、その他冊子		

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	高齢・障害	3	特定非営利活動法人 自立支援ネット	知的障害者自立支援ネットワーク事業	知的障害者の自立支援を行うグループホームの設立・運営に向けた、関係者間の理解を深めるための講演会およびセミナーを実施する。また、関連する市民団体との情報交換・交流の拠点としての交流室の整備を行う。	2,000	3	<p>旧武生市の中で活動をしているNPO団体の連携・協力態勢を作っていく拠点作りをベースにし、特に知的障害者の就労支援プログラムの構築のための事業展開という地道な活動である。事業としては端初に終わったという段階であり、今後の展開に期待するところである。</p> <p>しかしながら、事業の計画への準備段階から徹底した住民参加と協働という方針を持ち、実際に多くの賛同者と協力者を得て実施されたという手法を大いに評価できる。</p> <p>今年度も引き続き、福祉ビジョンフォーラムを開催するなど積極的な活動を展開している。</p>
地方分	高齢・障害	3	特定非営利活動法人 コンビニの会	障害者自立生活支援事業	障害者の特性を加味した自立生活訓練に関するマニュアルを作成し、近隣の事業者にも配布する。また、このマニュアルを使いこなすために、障害者自立生活訓練講習を実施する。	1,600	3	<p>障害者ことに知的障害者が地域で暮らしていくための手法の開発を継続して手がけている団体であり、そのノウハウをマニュアルという形でまとめ、関係者や賛同者に配布しながら、実践のノウハウを形成していくという事業であり、まさに時宜にかなった、地道なものであり、マニュアルの普及、実践的応用については今後期待したい。</p> <p>地域に密着した団体の活動が、今後の制度改変に伴ってどのような課題を担うことになるのか、ご本人や家族の状況の変化の中で、新たな事業の必要性も出てきており、様々な角度から期待したい。</p>
			<a href="http://homepage2.nifty.com/convini/">http://homepage2.nifty.com/convini/</a>					

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	高齢・障害	3	社団法人 認知症の人と家族の会広島県支部 (旧名称: 広島県老人呆けの人を支える家族の会)	若年性認知症の人と家族への相談、啓発事業	若年性認知症相談員を養成し、当事者やその家族を支援していくために、相談や集い活動の他に講演会や実態調査を行い、報告書にまとめる。	2,000	3	<p>若年性認知症は認知症高齢者に比してすべての対応が遅れている、という発想から本事業を実施した点は時宜になかったもので、国の施策ともマッチしている。本事業は若年性認知症相談員の養成だけでなく、本人や家族の支援を目的としているもので、相談活動や様々な集いの他に講演会や実態調査を行って高い評価を受けている。</p> <p>本事業の実施に当たっては、広島県や広島市の担当部局が参加していることや家族の会の中の「陽溜まりの会」が大きな役割を果たしているなど日頃の活動が実を結んだ結果と評価できる。若年性認知症の実態調査の結果として、報告書に7つの提案をまとめているなど、地元では大きな反響を呼び、医師、専門職から参考資料にしたいとの引き合わせがあり、地元新聞でも大きく報道された。</p> <p>また、本事業に始まった同様な運動が、「全国陽溜まり運動」として全国に普及しはじめ、現在では41支部に及んでいる点も評価できる。</p>
地方分	高齢・障害	4	特定非営利活動法人 医療 保健 福祉 建築の連携研究会	介護用ベッド、福祉用具リサイクル、リユース事業	自宅治療を余儀なくされる終末期の患者の需要に応えるため、不要ベッド等のリサイクル・リユース事業を実施する。	2,000	8	<p>循環型社会の形成を福祉において実践するもので、介護ベッド等のリサイクル・リユースを行う事業である。今回の取組みが市や市民に認知され、市の倉庫を借りる事が出来たことやスーパーの黄色いレシート活動で市民が直接支援してくれるようになったことなど、助成を契機とし活動が活発になった点が評価できる。</p> <p>事業のミッションが市民のニーズと合致している証である。</p>

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	高齢・障害	4	特定非営利活動法人 保健推進ハート&スマイル樋脇	健康な街づくり事業	高齢者が地域で自立して生活でき、世代を超えたネットワークづくりを形成することを目的に、各種セミナーや講演会等を開催し、高齢者の健康増進を図る。	2,000	7	樋脇町(合併前)は8千人弱の町であり、その町の保健センターを活用した健康づくり事業であり、セミナーや講演会を実施した。セミナーは定期的に(120回)実施し、延べ千名を超える参加者となった。セミナーではレクリエーションと健康チェックと講和が適度に混ざった構成となっており、参加者の興味を引き、継続参加や、ロコミにつながったのではないだろうか。 団体は当該事業を「成果の現れにくい身体的変化を確実にするために事業継続を最大の目標としている」と考えており、今後も地域生活に根ざした形での健康づくり事業を継続して実施していくことが期待できる。
					代表者名 理事長 眞野 良子			
地方分	子育て	1	特定非営利活動法人 ふれあいの家ーおばちゃんち	子育て・子育てにやさしいまちづくりネットワーク事業	①みんなで子育て・子育てネットワーク会議の開催、②保育サポーター養成講座、③保育サポートシステムとサポーター養成プログラムの検討を3つの柱として、子育てにやさしい異世代の人々の預け合いシステムを構築し、子育て・子育てにやさしいまちをつくることを目的としたネットワーク事業を実施する。	1,650	3	このNPOの活動は始まって3年目であるが、豊かな人脈を活用して、若者からお年寄りまでの「地域の世話焼き役」の養成事業にも関わっている。 助成により、「みんなで子育て・子育てネットワーク会議」を開催し、子育て支援事業を行う団体、子育て当事者、まちづくり関連団体・商店会等20団体の代表と学識経験者等が参加した。地域の「生活者」として、子育て支援(一時預かり)事業を足場とし、「まちづくり」を媒介に、他の多様な活動を展開するNPOとのネットワークを構築し、子育ての当事者が「集う場」、楽しく「遊ぶ場」、「学ぶ場」(=人材養成)、「聴く場」(=研修会)、「育む場」(他世代間の交流)、そしてそれを「繋ぐ場」(まちづくり協議会等との連携、「情報誌」の編集)を連携させる構想を持っている。他の団体同士を繋ぎながら、生活者の視点で「まちづくり」を無理をせずに行うという「哲学」が面白かった。
					代表者名 代表理事 渡辺 美恵子			

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	子育て	1	特定非営利活動法人 北区子育て支援センター	北区子育て支援ネットワーク事業	閉園した幼稚園跡地を利用して、就学前の子育て中の親子同士のふれあいの場を提供する「子育て広場」、1時間単位で未就学児を預かり親のリフレッシュを図る「地域保育室」、中高生にたまり場を提供する「フリースペース」、野外等の活動事業を行う。	2,000	7	この法人は、地域の行政の協力機関である「民生・児童委員」の有志が、現在の施策や個人の活動では解決できない問題を、自分たちで解決しようとして作ったNPOである。「子育て広場」は、就学前の子どもを育てる専業主婦の子育ての悩みを癒し、外に出ることで親も子もリフレッシュされ、来場の回数が増えるほど表情が豊かになっていく。さらに、広場に集う親子の意見により、ソフトエアロビクスの会などが立ち上がり、友達の輪が広がる。参加者の要望に応えるうちに、当事者の目論見を超えて、地域の人々の集う「居場所」としての地位を確立したようである。 神戸市の郊外の若い家族が多く流入する地域で、地縁組織と思われていた「民生・児童委員」の有志がNPOを組織して、このような「居場所」を運営するというあり方に大変興味をそそられた。
地方分	子育て	1	特定非営利活動法人 うていーらみや	子育て支援プロジェクト事業	乳幼児期の発達支援や親子のつながりを創り出す上で効果的な「わらべうた」普及や様々な分野からの講演会を開催し子育て支援の推進を目指す。	2,000	3	童歌は、短い旋律・単純なリズムにより、乳幼児の心を和ませるとともに親のストレスをも和ませる効果があると言われている中で、親子の関係や地域のお年寄りとの交流も深められ大変意義のある事業と評価できる。また、忘れ去られようとしている日本の童歌の伝承活動としても貴重なものと思われる。童歌の伝承活動にあたり、お年寄りも生き生き参加するなど三世代交流の場としても価値のある内容である。 出前講座は全県的な広がりを見せる中、マスコミ報道とも相俟って大きな反響となり、平成18年度には「子育てわらべうた研究会」を立ち上げるなど拡大を見せている点も評価できる。

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	子育て	1	財団法人仙台キリスト教青年会(仙台YMCA)	特別支援教育ネットワークづくり事業	LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある児童・生徒を支援するグループに対するモデルプログラムの提供やボランティア指導者養成等を通し相互に活かしあえるネットワークを形成する。	2,000	3	特別支援教育のなかでも特段のニーズの多様性を抱える領域における支援活動は、他の団体には真似のできないものであり、従来の活動の蓄積による周囲からの信頼を活かした優れた事業を展開している。よく言われるが現実には難しい「ネットワーク作り」という言葉がもつ本来の意味を体現するような成果が得られたと思われる。特に、この事業を踏まえて、団体が持つ独自の資源(たとえば専門学校)を活用した事業展開が構想されているのも素晴らしいといえる。
地方分	子育て	4	特定非営利活動法人松戸子育てさぽーとハーモニー	小中学生の居場所作りに係る事業	小中学生を廻る犯罪や諸問題が多発する中で、小中学生が安心して過ごすことのできる広場や居場所を開設する支援、連携を図る。	1,257	4	過去に助成を受け一時保育に取り組んだ親達が平成16年度にNPOを立ち上げ、地道に子育て・子育て支援活動に取り組んでいる。現在では、松戸市からも事業を受託するなど着実に成果をあげている。今回の活動も派手さはないが着実で、しかも、本事業を契機に地域の諸団体とのネットワークも形成されている。小中学生の居場所作りマニュアルも、実用性の高いものとなっている。 立ち上げて間もない団体であっても、地域に根を張って地道に活動を展開していくことによって、子育て・子育て支援活動ができるという見本のような活動である。こうした活動を大切にしたい。

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	子育て	4	カラカサナー移住女性のためのエンパワメントセンター	移住女性の子どもたちを対象とする支援事業	移住女性の子どもたちのうち、主に、小・中学生の子どもおよび、その家族に対する支援事業(相互交流の場づくり等)を行う。	2,000	7	条件が決して良いは言えない団体であるにもかかわらず、非常に優れた活動をしており、今回の助成事業も極めて精力的に実施し、成果を挙げている。全国的にみても、同種の団体がないなかで、常に困難を抱えながらもパイオニア的に活動を開発しており、今後も期待できる。
				代表者名	代表 西本 マルドニア			
地方分	子育て	4	青少年育成中ノ郷地区会議	「地産地消」による交流事業	「地産地消」について体験学習し、手作り料理や製作品等を媒介に地域の高齢者や障害者等との交流を深めボランティアとして“地域づくり”に貢献する青少年の育成を目的とし郷土料理講習会、情報誌発行、装飾品作成の講習会を実施する。	700	2	地元食材を使用することで郷土料理への関心、青少年と高齢者との交流が深まるとともに、双方に相乗効果をもたらしていることは意義深いものがあり、事業の目的は十分に達成できていると評価できる。活動としては、「ふれあい郷土料理の集い」として、延9回の開催し大勢の参加者が認められ、開催時に配布した「ちょっと知っ得情報」は、豆知識としては興味深いものである。 希薄となりつつある社会において、郷土料理を一つのツールとして、啓発できる手段の一つに成り得るものと思われる。また、今までの団体の活動状況や参加者の大半が継続を希望していることから今後の活動も期待できる。
				代表者名	会長 福本 幹久			

助成区分	基金	テーマ	団体名	事業名	事業内容	助成金額(千円)	手法	評価できる点
地方分	障スポ	2	みんなのダンスフィールド	インクルーシブな身体表現活動の普及事業	障害児・健常児の枠を無くした身体表現活動の啓蒙普及するため、障害児・者の観覧に重点を置いた公演、パフォーマンスの開催、身体表現活動のビデオを製作する。	1,080	3	インクルーシブな身体表現活動としてダンス講演等の活動を行っている団体で、活動における障害者達の表情が生き生きしている点が素晴らしい。また、その成果を広めるため三種類のDVDを作成しており、全国的な普及も期待できる。 今回100万円の助成金の他、収入面では参加費収入や講演チケット売り上げなど半分程度確保しており、事業継続をするための方策もなされている点も評価できる。
			<a href="http://homepage2.nifty.com/co-dance/">http://homepage2.nifty.com/co-dance/</a>	代表者名 代表 西 洋子	住所 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32 東洋英和女学院大学内			電話 045-922-7270
地方分	障スポ	3	新潟県障害者スポーツ協会	ふれ愛スポーツ・精神障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツを「特別なスポーツ」から「障害の有無にとらわれない誰もが楽しめる普通のスポーツ」に変革していくため、また、未普及の「精神障害者スポーツ」の振興を図る。	1,900	3	本事業は、平成21年度全国障害者スポーツ大会の開催県として、県民への障害者のスポーツの理解を深める目的と、精神障害者のスポーツ振興への組織化が大きな目的として実施されたように思われる。 成果としては、精神障害者ソフトバレーボール教室の開催の結果、昨年0チームであったのが今年度8チームに増加するなど大きな成果が見られており、平成21年度の大会に向けて引き続きサポートも期待できる。
			<a href="http://www8.ocn.ne.jp/~nsa_d1999/">http://www8.ocn.ne.jp/~nsa_d1999/</a>	代表者名 会長 青柳 芳郎	住所 〒950-0121 新潟県新潟市亀田向陽1丁目9-1 新潟ふれ愛プラザ内			電話 025-383-3610